

都留興讓館高校・英語理数科の他校種連携事業について

山梨県立都留興讓館高等学校

1. 都留文科大学との連携事業

英語理数科1年生を対象に、学校設定科目「グローバル・サイエンス」において、都留文科大学の留学生を招いた英語によるコミュニケーション活動を実施した。本取り組みは、英会話によるコミュニケーション能力の向上だけでなく、様々な国籍や文化的背景を持つ留学生との交流を通して、広い視野と豊かな国際感覚を育み、将来国際社会で活躍できる人材を育成することを目標としている。

前期は、スペイン、フィンランド、デンマーク、韓国、フランス、イタリアなど計14名、後期はイギリス、エストニアなど計4名を迎えた。留学生はPowerPointを用いて自国の文化や社会を紹介し、生徒はそれを聞いた上で英語による質問を行った。さらに、留学生が準備した英語によるゲーム活動にも取り組み、生徒は楽しくリラックスした雰囲気の中で英語を使用することができた。回を重ねるごとに、生徒は積極的に英語でコミュニケーションを図るようになり、英語力への自信も高まっていった。

一方で、学期によって留学生の数に大きな変動がある点が課題として挙げられる。留学生が多い場合は、ほぼ1対1の英会話が可能である一方、人数が少ない場合にはグループ活動中心となり、生徒が英語を使用する量に差が生じてしまう。留学生側は、すべての生徒が英語に触れられるよう工夫した活動を準備してくれているが、人数による物理的な制約は依然として解決が難しいと感じた。



2. 小学校への高校生による外国語コミュニケーション講座

英語理数科2年生は、学校設定科目「グローバル・サイエンス」の授業において、小学校での外国語コミュニケーション講座を実施した。この取り組みは、依頼のあった小学校を訪問し、対象学年に応じた英語の出前授業を行うものである。授業内容や教材はすべて生徒自身が企画・作成し、英語を「教える」経験を通して自らの英語力を高めるとともに、相手の立場を考えて計画・実行・振り返りを行う力を育成することを目的としている。

今年度は、6月と11月に大月市立猿橋小学校、9月に都留文科大学附属小学校、10月に都留市立谷村第二小学校を訪問した。生徒たちは当初、教材づくりや指導方法に手探りの状態であったが、回を重ねるにつれて小学生の反応や特徴も把握し、より適切な教材や活動内容を準備できるようになった。同じ小学生であっても、1年生から6年生まで習熟度の差が大きいいため、訪問するたびに教材を作り直したり内容を調整したりするなど、工夫しながら取り組んだ。小学生は楽しそうに活動に参加し、高校生も回数を重ねる中で指導が上達していった。実際に、猿橋小学校を2度目に訪問した際には、担当教員から「1回目よりも生徒が自信を持って教えており、指導の質が上がっている」との評価をいただいた。これらの経験を通して、生徒はPDCAサイクルを実践し、企画力や実践力を身に付けることができた。

一方で、「小学生に英語を教える」という点については課題も見られた。ゲーム性を取り入れ、楽しく学べる授業を提供するという点では成果があったものの、小学生がどの程度英語を身に付けたかという観点では十分な成果を得られたとは言い難い。ただし、小学校外国語教育の目標にある「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」という点は達成できたと考えられる。次回同様の機会がある場合には、まず適切な目標設定を行い、その目標を達成するための方法や、成果を確認するための評価項目を明確にした上で取り組みたい。



令和7年度「連携についての実践報告集」

山梨県立吉田高等学校

実践事例 1

令和6年度「教育ボランティア」

本校では地域貢献の一環として、平成20年度より、進路が決定した3年生を近隣の小中学校へ教育活動の支援を行うスタッフとして派遣してきました。この事業を通じて、本校の教育活動への理解を深めていただくこと、地域全体の教育力の向上に貢献することが目的です。

教育ボランティアの活動は、小中学校からも高い評価を受けると同時に、参加した生徒たちにとっても、高校生活の最後を飾る有意義な行事となってきました。

教員志望の生徒や福祉、ボランティア活動に興味関心を持つ生徒が多数参加しているこの活動を、今後も推進していきたいと考えています。

〈 概 要 〉

1 派 遣 校 下吉田第二小学校 忍野小学校 下吉田中学校

2 活 動 日 令和7年2月中

(登校日を除く。本校の校内行事に支障のない範囲で活動)

[下吉田第二小学校] 2月17日(月)、18日(火)、20日(木)
いずれも終日(給食あり)

[忍野小学校] 2月17日(月)、18日(火)、20日(木)
いずれも終日(給食あり)

[下吉田中] 2月18日(火) 15:20~17:00
20日(木) 15:20~17:00

3 活 動 内 容

[下吉田第二小学校] ・授業中の教科学習補助
・清掃、給食活動の補助

[忍野小学校] ・授業中の教科学習補助
・清掃、給食活動の補助

[下吉田中学校] ・定期試験に向けて放課後に行う、英語・数学等の補習補助



実践事例 2

プロジェクト 2 2 3 (フジサン 🍄)

本校では、地域社会が抱えている様々な課題について、主体的にとらえ、考え、解決に導く力を生徒に身に付けさせるという観点から、総合的な探究の時間に「富士山学」という課題探究活動を行っています。富士山学の基本的構成は、さまざまな領域から講師を招いて基調講演を受ける中で、多くの知識や情報を自分の中にインプットして行く段階とそこから得た情報や知識を土台に自らが問いを見つけ探究し、実際に活動をして行くアウトプットのステップ構成となっています。「プロジェクト 2 2 3」は、そのインプットの段階に該当するものです。

【プロジェクト 2 2 3 目的】

- ① 富士北麓地域において、地域のために行われている取り組みに関し、より実際的な話しや経験談を聞くことで、「富士山学」への各自の取り組みの参考とする。
- ② 「富士山学」への各班の取り組みについて、富士山および富士北麓地域で活動している方々から助言をいただき、今後の活動に活かす。
という、より一歩踏み込んだ、体験や経験談、あるいは実体験をするというものです。

〈 概 要 1 学 年 〉

実施日 6月18日(水) 13:00~15:45

実施内容 富士吉田商工会青年部の講師から、7会場に分かれて実践的事例の講義を受ける。生徒は希望分野を2コマ(各50分)選択し受講する。

講座内容（計7講座）

- ① 「情報・科学・防災」 上田和弥(キャップクラウド株式会社)
会社の事業として富士山駅 2Fにあるコワーキングスペース「ドットワーク Plus」を運営しながら、地域コミュニティでの経験を活かして人や企業を繋ぐことを信条としている。情報 IT とコミュニティの大切さについて講演いただいた。
- ② 「地域・まちづくり」 山崎博之(山崎織物株式会社)
シルク生地を中心とした生地の開発のほかに「心に花を咲かせる」自社製品ブランド「富士桜工房」を主宰。事業を通じたまちづくりについて講演いただいた。
- ③ 「食」 高橋亮太(株式会社かぎしっぽ)
地域おこし協力隊として富士吉田市に移住、『食を通じた地域活性』をテーマに活動を進めながら、2018年4月に西裏にてイタリアンレストランかぎしっぽを開業。移住、地域活性の取り組み、経営者としての視点について講演いただいた。
- ④ 「スポーツ・運動」 五十嵐雅彦(一般社団法人ふじざくらスポーツクラブ)
この地域の課題に対してクラブとして解決していく、地域に根差した活動を通じて地域を盛り上げていくスポーツ×地域活性化の奥深さについて講演いただいた。
- ⑤ 「健康・福祉・医療」 小林恵(株式会社まるやま)
介護関係の会社を経営、長年介護業界に従事してきた経験から、高齢化社会となりつつあるこの地域にだからこそ大切にしてほしいことを講演いただいた。
- ⑥ 「芸術・文化」 小林純(合同会社新世界乾杯通り)
かつての西裏が残した文化と令和に入りさらに盛り上がりを見せる新たな西裏について通りの管理者としての目線から講演いただいた。
- ⑦ 「国際」 小林佑輔(株式会社 弥佑)
英国での留学を経験を踏まえたノウハウを活かしながら地域の事業者とのコラボレーションを行いながら衣料品店の経営を行っている。自身の経験やインバウンドの増えた富士吉田の課題について講演いただいた。



今年度の様々な連携について

山梨県立富士北稜高等学校

本校では毎年小学生やふじざくら支援学校と交流を行っております。小学生には特色ある総合学科の授業の一端を知ってもらうことで、小学生たちの望ましい職業観の育成やキャリアに対する考え方を学んでもらいます。高校生にとっては異年齢の子どもたちと過ごすことから社会性や他者への思いやりを学び、社会の一員としての自覚を促すことを目的としています。また、ふじざくら支援学校との交流では同年代の生徒さんとの交流からお互いを認め合う心を学びました

1 親子カルチャー教室（南都留地域教育推進連絡協議会共催）

今年度で23回目となる「親子カルチャー教室」は、毎年たくさんの児童のみなさんからの応募がある人気の事業となっております。夏季休業中に小学生4～6年生を対象として5つの系列が系列ならではのプログラムを開講し、小学生に体験してもらう取り組みです。高校生が「ミニ先生」として丁寧に指導し小学生と一緒に作業するにあたり、教える力やコミュニケーション能力を養えます。参加した小学生からは「とても分かりやすく集中して取り組めた」「作業が楽しかった」「初めて聞いたけどうまくできた」などの声が寄せられ、有意義な一日となりました。



2 ふじざくら支援学校との交流会

12月にふじざくら支援学校との交流会を行いました。今年度の交流では、本校の生徒がふじざくら支援学校を訪れました。本校のボランティア委員と生徒会役員の生徒が参加し、全て生徒主導により行われました。誰でも楽しめるボッチャを行い交流を通じて、障がいの有無に関係なく協力する楽しさや達成感を体験しました。また、ふじざくらの生徒には合唱を披露していただきました。

共生社会の価値を実感する機会となり、今後の成長につながる良い経験になりました。



次年度も引き続き、生徒の成長につながる交流活動をさらに充実させてまいります。本年度の取り組みにご協力いただいた関係機関の皆さまに心より感謝申し上げます。

地域の人材と連携した教育活動

山梨県立ひばりが丘高等学校

1 地域人材を活用した取り組み

本校では、長年にわたり地域の人材と連携した体験活動を実践してきた。特に「ひばりのドリカムプラン」は、生徒の自己肯定感・自己有用感の涵養や粘り強さと継続性、人と関わる力の育成を主眼に、平成22年にキャリア教育プランとして開始したものである。それ以来、生徒の就労意識や社会貢献の意識を高める一助となっている。その活動内容は多岐にわたっているため、本稿では2点に絞って紹介したい。

2 創作授業

毎年、7月下旬の夏休み直前に、一週間をかけて取り組んでいる。今年度は、7月14日に事前指導を行ったあと、15日から18日の4日間で実施した。



絵画の作品

1・2年次生は、「個で作品を完成し、達成感を味わう」ことをねらいとし、切り絵、陶芸、染め物、絵手紙、かご作り、絵画の6部門の中から各自が選択した部門の創作に取り組んだ。このなかでかご作りは、本年度から新たに導入したものである。

3年次生は、「集団で協力し互いに作品を完成させることで、他人と協力しながら個々の作品を完成させる喜びを味わう」ことをねらいとし、全員で協力しながらそれぞれの刻字の作品を制作した。昨年度は教育祭にて優秀賞・金賞を獲得している。完成した作品は、校内の玄関付近にあるショーケースに展示され、生徒・職員および訪問者の目を楽しませている。

4年次生は、「集団で協力して完成した作品が、公共のためになる喜びを味わう」ことをねらいとし、木工作品の製作に全員で協力して3台の本棚を製作した。かつては、出来上がった本棚やベンチは、地域の小中学校等に寄贈してきたが、平成4年度からは、本校の隣に新設された民間の複合型福祉施設に寄贈している。寄贈の様子は、地元の新聞でも紹介された。



製作した本棚を寄贈

夜間部の1～4年次生は、「個で作品を完成し、達成感を味わう」ことをねらいとし、昼間部より在籍生徒数が少ないことから、陶芸、絵手紙、刻字、絵画の4部門に絞り、各自が選択した部門の創作に取り組んだ。

これらの講師には、地元で活躍している専門家を招いており、地域の人材を活用することによって、年次ごとのねらいを達成できている本校独自の稀有な授業であると捉えている。

3 総合的な探究の時間

年次ごとに、テーマを決めて取り組んでいる。「地域を知ること」と「自己を探究すること」が、大きなねらいである。

1年次生は、「うどん探究」を行っている。本校の活動として、一般の方にも広く知られているのは、「うどん」であろう。ただ、これはうどん部としての部活動なので、それを生徒全体に広げるために、カリキュラムに組み込み、1年次生全員で取り組んでいる。そこでは、地元うどん店の経営者から生の声を聴き、うどんを通して地域の産業や歴史を学んだり、商品開発について専門家から学んだりしている。さらに、うどん部顧問とうどん部員の指導のもと、実際にうどん作りを体験し、この地域特有の食文化を継承する活動となっている。



うどん作りに集中する1年次生

2年次生は、「地域探究」をテーマとして設定し、本校の所在する富士吉田地域の歴史・文化・自然を広く知ることを行なっている。1年次に「うどん」を通して掘り下げた地域の探究を、横に広げる取り組みであり、縦糸と横糸が絡み合うことで郡内織ができあがっていくような関係になっている。具体的な活動としては、花・野菜づくり、地域史の語り部による講話、富士吉田市商工会青年部協力の下、地域の産業人による講話等によって地域理解を深め、最終的には NPO 法人「かえる舎」の協力のもとで、富士吉田市の名所や産業等を踏まえたかるた制作を行っている。

3・4年次生は、「自己探究」をテーマとして、2年次で探究した地域と自己との関わりを深めつつ、自身の進路希望先の実現に直結するスキルの育成を図っている。接遇講話や着こなし教室などの社会人として身につけるべき素養や職業理解など、進路先を決定するためのポイントなどをそれぞれの専門家を招いて学んでいる。イメージとしては、2年間をかけてできた織物をもとに、衣服や袋などの立体的な製品として仕立て上げ、店頭で売り出していくといったところだろうか。



姿勢正しく接遇練習

なお、夜間部の1～4年次生も、昼間部のカリキュラムに準ずる形で取り組んでいる。本校の生徒は、卒業後に地元の企業に就職する者が多い。県外に進学する者もいるが、卒業してから地元に戻ってきて就職することも多く見られる。したがって、総合的な探究の時間で地域について学習しておく意義は、大きいと考えている。

4 次年度への展望

今年度から本校でもコミュニティ・スクールがスタートした。今まで以上に、学校・家庭・地域の連携・協働が進められていこう。今年度までの成果を生かしつつ、地元と密着した教育活動を、さらに発展させたいと考えている。

～ 地域課題を知る ～

山梨県立富士河口湖高等学校

1 事業名

K I P (K A W A K O I N S I G H T P R O G R A M) としての
「総合的な探究の時間」の取り組み

2 事業の目標

- ①自分が生まれ育ち、現在も居住している地域の課題について、主体的・協働的な探究活動をとおして理解を深め、将来的には地域に戻り、多方面から活性化に貢献することができる地域リーダーの育成。
- ②地域課題解決の取り組みから、将来の進路実現へ繋がる個々の探究活動能力を養う。

3 育てようとする資質や能力及び態度

自ら思考できる資質、論理的思考力、実践的なコミュニケーション能力、課題解決能力、そして、好奇心を高め、他者と協働すると同時に自らの意見を伝え、継続的に取り組む態度

4 活動の計画（3年間の内容）

- 1 学年：「地域課題を知る」（地域課題を知ると同時に、関係する職業やその人の生き方について学ぶ）
- 2 学年：「地域課題について考える」（地域課題について考え、改善・解決のためのプランニングをする）
- 3 学年：「地域課題解決のための手法を発信する」（高校生として提案・発信する）

5 実施状況

1 学年の内容

4 月・・・○K I P の内容について、ガイダンスを実施。

○「富士山レンジャー」から「富士山の自然環境とその保全」をテーマとして、身近な富士山麓の自然環境の現状、そこから見える保全への諸課題などについて話をしていただいた。

5 月・・・○山梨県立文学館学芸員による出前講座。

「山梨の文学 ～太宰治・中村星湖～」をテーマに、山梨に縁のある作家、太宰治や中村星湖の人生や、その作品と地域とのかかわりなどについて、話をしていただいた。

○山梨県立美術館学芸員による出前講座

「山梨の美術について」をテーマに、山梨県に関係するアーティストを中心とした美術の視点の話をしていただいた。

- 6月・・・○出前講座を踏まえ、博物館・美術館・文学館の実際に施設に訪問する機会を設け、山梨について一層理解を深めた。
- 富士河口湖町役場政策企画課の方から「富士河口湖町の現状と課題」をテーマに、富士河口湖町の現状や抱える課題、今後のまちづくりなどに関するお話や、探究学習を進めるにあたって、課題設定の手法など、多岐に渡る話をしていた。
- 富士河口湖町教育委員会生涯学習課文化財係の方からは、「富士河口湖町の歴史と文化」をテーマに、富士山信仰を中心とした地域の歴史や、地域の祭りなどの伝統文化に関する話をしていた。
- 7月・・・○高校時代に行っておくべきことや、これからの進路選択に向けて、どのような心構えが必要かといったことを意識するため、株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブより講師を招聘し、「スモールクラブヴァンフォーレ甲府が伝えるスポーツビジネスの魅力」というテーマで講演をいただいた。
- 7月末から9月にかけて、2年次での文理選択における学習として、夢ナビの動画視聴を行い、進学に対するイメージを具体化し、進路意識の高揚を図った。
- 8月・・・○富士東部保健所から講師を招聘し、「やまなしの健康づくり」をテーマに、県内の医療福祉の現状や、健康づくりに携わる職業の紹介など多岐に渡る話をしていた。
- 9月・・・○2学年の探究活動との接続のため、2学年の中間発表を聴講し、これからの自分たちの探究テーマや方向性について、考える機会を設けた。
- 山梨の大学について出前講座等を利用して、「大学でどんなことが学べるのか」・「大学の現状や卒業後の進路について」など県内の大学の先生方より様々な話をしていた。
- ①山梨大学（8テーマ）
- ・ことばのしくみ
 - ・数学的な見方や考え方を養うには
 - ・彫刻表現 テラコッタをつかって
 - ・未来の子どもを救う方法を今日亡くなった子どもに聞く＝チャイルド・デス・レビュー
 - ・ひとが生きるということ～集中治療室で看護師として働いて考えたこと～
 - ・リハビリテーション概論～理学療法・運動療法～
 - ・発酵食品について
 - ・高校生のためのキャリア形成
- ②健康科学大学
- ・理学療法学科について
 - ・看護学科について

10月・・・○9月に引き続き、山梨の大学について出前講座等を利用して、「大学でどんなことが学べるのか」・「大学の現状や卒業後の進路について」など県内の大学の先生方より様々な話いただいた。

③都留文科大学

・「高校生のための社会起業論（ソーシャルビジネス）：社会課題に挑み・解決する生き方」

④山梨県立大学（5テーマ）

・仕事選びー看護の仕事ー
・文化人類学：世界の文化を知ろう！
・「自治体 2040 問題」で考える我がまちの未来
・社会福祉を学ぶ「私」を大切にすることの意味
・子どもと美術

⑤産業技術短期大学校（3テーマ）

・機械図面の基礎～立体を平面で表す～
・AI 技術の体験
・3D プリンター入門

○北麓地域の産業や観光、地域の魅力などについて企業の話を行うために、企業を支援する栗井英朗環境財団と北麓地域の魅力を発信している株式会社 P N E U M A 様を招聘し、話をしていただいた。

10～2月・・・○探究の方法について1学年全体で学習。（全5回）（予定）

・外部プログラム（TimeFact）を活用した探究学習の基礎を学習した。

- | | |
|----------|-----------|
| 1) 課題の設定 | 2) 情報の収集 |
| 3) 整理・分析 | 4) まとめ・表現 |
| 5) ふり返り | |

3月・・・○各クラスで、4つのテーマに沿ってグループを編成し、学習した探究の流れに従って課題を設定し、課題解決に向けたグループ学習を実施した。また、2学年の最終発表を見学し、本校の探究活動の実態を把握した。

①「環境・防災」

（富士山文化遺産・樹海・地質学・富士五湖・獣害対策・富士山噴火・南海プレート地震・水害・森の保守など）

②「産業・観光」

（インバウンド・オーバーツーリズム・起業・商品開発など）

③「医療・福祉」

（保育・福祉・医療・医療従事者不足・県内の健康問題など）

④「暮らしと文化」

（富士山信仰・教育・ゴミ問題（富士山も含む）・人口問題・空き家問題・仕事など）

2 学年の内容

4 月 . . . ○ ガイダンス・テーマの決定

1 学年の自分の取り組みを見直し、今年度の 4 つのテーマ「環境・防災」、「産業・観光」、「医療・福祉」、「暮らしと文化」についてそれぞれ興味あるテーマを選択しグループづくりを行った。今年度は 1 学年との連携を目標の一つとしており、自分たちの探究活動に、課題が残ったり、新たな課題が発生したりしても、無理に解決しようとせず、次年度への引継ぎとして残すこととした。

5 月・6 月 . . . ○ グループでの探究課題の設定・活動…開始

探究計画書の提出(整理シート)

情報収集、整理と分析、中間発表準備を行った。

7 月～9 月 . . . ○ テーマごと中間発表を行い、課題の確認・修正および課題の解決策・手段について検討した。

10 月 . . . ○ 現地での調査・確認、現地に赴いて直接のインタビューや施設見学、非常食の試食や起震車の体験、河高生徒に対するアンケート等、実際にアクションを起こし、探究活動をさらに深めた。

また、沖縄修学旅行事前学習を通して地域課題の比較について考えた。

11 月・12 月 . . . ○ 発表会に向けて原稿等の準備をした。

資料作成(ポスターセッション・パワーポイント等)役割分担の決定

1 月～2 月 . . . ○ リハーサル(グループごと)を経て発表。

3 月 . . . ○ テーマごとの選抜グループによる全体発表会。1 年生にも発表を見せることにより、本校のテーマや諸課題を引き継いだ。

5 事業の成果と今後の課題

探究学習を 3 年間かけて、自分の将来(進路)に繋がるように「地域課題」を題材にして、1 学年では「知る」、2 学年では「考える」、そして 3 学年では「発信する」を目標に計画した。また、これまで単年度で完結させていた探究活動を、継続的なものとし、さらなる深まりを持たせられるように、1、2 学年の連携を検討してきた。そのため、二つの学年を通じ、共通するテーマを設け、テーマに基づいた取り組みを実践した。

1学年の活動では、生徒自身が住んでいる地域のことについて、講師の方の話聞く中で、地域のことについて初めて聞くことや知ることが多く、また、歴史・文学・自然・仕事などについて、自分が生きている(生活している)地域や仕事や職業などについて理解を深め、自らの将来を考える学びを体験できたと考える。

2学年の活動では、これまでの活動を深化させていくとともに、未解決課題やさらなる探究課題が発生した際には、次年度に引き継ぐという意識を持ち、柔軟で幅広い活動ができるようになった。

これらの体験を通して、生徒は山梨や地域について「何となく知っている」から、地域の現状に興味・関心を持ち、徐々に「知る」から「考える」ようになってきている。

地域や自分の将来、高校生としてできることは何かを考えさせ、しっかりと行動できる姿勢を身につけ、地域や社会に貢献できる人材を育てることがこのプログラムの課題である。

活動の様子



文学館・県立美術館での展示見学や学芸員からの講義聴講



各大学からの出前講義

企業からの講演



グループに分かれての探究活動

「インターアクトクラブの活動による校訓の実践と地域連携」

富士学苑高等学校

1. 本校におけるボランティア活動の理念^{†1}

富士学苑高等学校は、創立時から一貫して「人間形成」・「人造り」を目標としている。生徒個別の目標達成のために、その基本となる礼儀・規律遵守・物事に取り組む姿勢・生活態度などの錬成を図っている。その柱として、「報恩・奉仕・精進」の校訓の下、次の三つの生徒目標を掲げている。

- 一. 祖先の恩、両親の恩、人々の恩を感謝し進んで世のために奉仕できる人となろう
- 二. 常に精進し、難事解決に全力を尽くして実力を養い安心と自信に満ちた生活のできる人となろう
- 三. 優れた技能を身につけ、りっぱな生産的社会人になろう

校訓を実践するものとして、学校行事に「接心」がある。坐禅や写経等を通じ、「なりきる心」の体得に努める。坐禅をするときは心を整え、読経をするときは声を合わせて大きな声で読むなど、そのことだけに専念、集中し、精神を修養する。また、学校行事として「全校奉仕」が行われており、全校生徒で地域の清掃活動に取り組む機会を設けている。さらに、地域との連携を図るため、インターアクトクラブが創部され、地域振興に努めている。

2. 富士学苑高等学校インターアクトクラブの概要^{†2}

インターアクトクラブは、地域のロータリークラブの支援を受けて設立されるクラブで、地域貢献と国際交流を行うことを目的としている。世界 145 カ国に存在し、地区ごとに研修や交流の場が設けられている。ボランティア活動などを通して、「超我の奉仕」を学ぶとともに、行動力やリーダーシップ、国際感覚などを養う。

富士学苑高等学校インターアクトクラブは、富士吉田ロータリークラブの提唱により、1990年に発足した。主な活動は、富士吉田ロータリークラブの方々との交流と、地域の様々なボランティア活動に参加することである。また、国際ロータリー第 2620 地区に所属し、静岡と山梨を合わせて 25 校のインターアクトクラブ員と交流を図っている。

※ロータリー……自分を磨き人を育て、奉仕活動などを行う世界的な団体

3. 富士吉田ロータリークラブとの連携

表 1 富士吉田ロータリークラブと合同で行う活動

	活動		活動
4月	RC 例会（青少年奉仕例会）	10月	IAC 例会，ポリオ撲滅運動 IAC 指導者講習会
5月	IAC 例会，地域清掃		
6月	IAC 例会	11月	IAC 例会，RC 地区大会
7月	IAC 例会	12月	RC 例会（クリスマス例会）
8月	IAC 年次大会，富士山清掃	1月	IAC 例会
9月	IAC 例会	2月	IAC 例会

IAC：インターアクトクラブ RC：ロータリークラブ

表 1 の通り、ほぼ毎月、富士吉田ロータリークラブと交流する機会が設けられている。年に 10 回行う IAC 例会には、ロータリークラブの代表の方に出席していただき、部の活動を知っていただくとともに、講評をいただいている。また、年に 2 回、ロータリークラブの例会に招待していただき、クラブの代表者が出席している。さらに、合同でボランティア活動や研修会に参加し、活動を通じて奉仕の精神を学んでいる。

(1) 青少年奉仕例会

富士吉田ロータリークラブの青少年奉仕例会に招待していただいた。日頃からご支援をいただいているロータリークラブの方々に、インターアクトクラブの活動を報告するとともに、ロータリークラブの取り組みについて学ぶ機会となった。（図 1）

(2) ポリオ撲滅運動

ポリオ撲滅に向けた募金活動を、富士吉田ロータリークラブの方々と合同で行った。街を歩きながら呼びかけを行うことで多くの方々にご協力いただき、一人ひとりの小さな力が合わさると、大きな力になると実感した。（図 2）



図 1 青少年奉仕例会



図 2 ポリオ撲滅キャンペーン

4. 地域のボランティア活動を通じた地域連携

地域の商工会議所や社会福祉協議会などから依頼を受け、下記のようなボランティア活動に参加した。

- ・ 地域振興活動……市民祭り，市場などの運営補助
- ・ 支援活動……募金活動
- ・ スポーツ大会補助……富士五湖周辺のマラソン大会等の運営補助
- ・ 啓発活動……薬物乱用防止運動
- ・ 介護施設行事補助……秋祭り等の運営補助

(1) 第14回 西裏昭和祭り

「昭和レトロ」をテーマに、地域の子どもたちと折り紙をしたり、喫茶店等の運営を補助したりした。地域の方々だけでなく、海外の方々とも交流する機会となった。

(2) オータムフェスタ 2025

富士吉田商工会議所青年部から要請をいただき、オータムフェスタのボランティア活動を行い、ヨーヨーやスタンプラリーなど、地域の子どもたちに楽しんでもらうコーナーを担当した。多くの人々の支えがあってイベントが成り立っていることに気付いた。



図3 第14回 西裏昭和祭り



図4 オータムフェスタ 2025

5. まとめ 富士学苑高等学校の校訓とインターアクトクラブの活動

インターアクトクラブの活動は、本校の校訓である、報恩・奉仕・精進を体現する活動である。自分たちが支援をする側の立場を経験することで、今まで当たり前感じていたことが誰かの支えによって成り立っていることに気付くことができた。そこから感謝の心が芽生え、今度は他者のために自分ができることを実践する奉仕の心が育まれている。また、ロータリークラブや地域の方々との交流を通じて「超我の奉仕」を学ぶとともに、自分が将来、どのように社会貢献をしていくか考える貴重な機会になっている。

インターアクトクラブの活動を通じて、一人ひとりが自分にできることを継続する姿勢を先輩方から引き継ぎ、自ら模範を示すことで、支援の輪を広げていきたい。

6. 参考・引用文献

^{†1} 令和7年度 富士学苑中学・高等学校 学校要覧

^{†2} <https://www.rotary.org/ja/get-involved/interact-clubs>

本校の交流及び共同学習における地域との連携

山梨県立ふじざくら支援学校

交流・渉外部

本校は富士北麓地域に居住する肢体不自由児、知的障害児、病弱（高等部のみ）、重複障害児のための特別支援学校である。

地域の小学校、中学校、高等学校、諸団体と連携し、交流及び共同学習を実施している。このことについて報告する。

交流及び共同学習の目標

- ① 児童生徒の経験を広め、豊かな人間性を育む。
- ② 地域や同年代の人と関わるための社会性や意欲を養い、自立や社会参加を促進する。
- ③ 共生社会の実現に向けて、様々な人々と共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会とする。

1 学校間交流

学部	学校間交流連携校
小学部	鳴沢村立鳴沢小学校
中学部	富士河口湖町立河口湖北中学校
高等部	山梨県立富士北稜高等学校 山梨県立吉田高等学校

【小学部】

小学部は1年生から6年生までの全学年が鳴沢小学校と年に2回直接交流を行っている。1回目は本校で、2回目は鳴沢小学校で実施している。両校の担当者が打合せを行い、児童の実態に応じて内容を検討し、1年生はバルーン遊び、2年生はふれあい遊び、3年生は風船リレー、4年生はサーキット、5年生はサイコロトーク、6年生はチーム対抗リレーなどを行っている。

1年生は初めての交流で教室に入ることが難しく、入口から覗いて友達の様子を見ている児童もいるが、自然と触れ合ったり一緒に活動したりする内容を計画したことで、本校の児童だけではなく、鳴沢小学校の児童も楽しんでいる様子が見られた。6年生は教師が間に入らず、本校の児童と鳴沢小の児童とで活動ができる場面も多くあった。鳴沢小学校の児童が本校の児童の様子を気に掛けたり、ペースを合わせてくれたりする場面が多く見られるようになり、6年間の交流の積み重ね、成長を感じた。



【中学部】

本校の中学部生徒全員が河口湖北中学校の2年生と年に2回直接交流を行っている。1回目は本校でゲーム「ペア探し」「ゴロゴロドカン（自己紹介）」「ボール運びリレー」、2回目は河口湖北中学校で発表（ダンス、歌）を実施している。休み時間は、生徒同士でコミュニケーションを取り合い、バスケットボールやキャッチボール、サッカー、おしゃべりなどが自然と始まり、体育館のあちこちから笑い声など楽しんでいる声が聞かれた。ゲームなどの活動を通して互いのことを知り、理解を深めることができた。



【高等部】

高等部生徒全員が富士北稜高等学校と実施している。富士北稜高等学校のボランティア委員会と生徒会の生徒が本校に来校し、ボッチャを通して交流を深めた。1試合目は学校対抗で実施した。各学年ともに接戦が繰り広げられた。2試合目は両校の生徒の混合チームをつくり、対戦した。各チームが作戦会議をし、円陣を組む様子が見られた。試合中は本校の生徒の投球を富士北稜高等学校の生徒がサポートする場面があり、両校生徒が一つになって取り組むことができた。



【全学部】

学校間交流の一環として、本校の学園祭「ふじざくら祭」で、交流相手校の児童生徒の作品を展示した。

鳴沢小学校は絵画や書道作品、河口湖北中学校は宿泊学習の振り返り、吉田高等学校は学園祭で使用した旗や写真、絵画、富士北稜高等学校は美術部による陶芸作品を展示した。児童生徒は様々な作品の中から交流先の友達の作品を見つけ笑顔をみせたり、じっくりと見たりする様子が見られた。またタブレットを使い、お気に入りの作品を写真に撮り、学級で発表をする学年もあった。

同じ年代の友達や、自分よりも年上のお兄さんお姉さんの作品を見ることで、刺激を受け、次のステップへの目標や憧れをもつことができた。



2 地域交流

学部	地域交流連携先	内容
小学部	富士吉田市立図書館 このはなさくや	絵本や紙芝居などの読み聞かせ パネルシアター、手遊びなど
	有志の会	プラネタリウムの鑑賞
中学部	富士五湖 ウインドオーケストラ	楽器の演奏・鑑賞
	有志の会	プラネタリウムの鑑賞
高等部	NPO 法人 富士と湖とかかしの里	清掃・花植え活動、農作業など
	山梨県立 富士ふれあいセンター	清掃活動
	はまなし寮	合唱の発表
全学部	富士ふれあいの村まつり	富士ふれあいの村まつりへの参加 ダンス等の発表

【小学部・中学部】

有志の会の方々と一緒に星つむぎの村の鑑賞会を実施した。今年度で3回目となり、昨年度参加した児童は、事前学習の際から「楽しみ！」と期待の声が上がった。体育館に設置された大きなドームには、満点の星空が広がり、児童生徒は手を伸ばし、「あっ、星だ」「ぼく、オリオン座知っているよ」など嬉しそうに話す様子が見られた。地球や火星などの惑星が近づいたり遠ざかったりする様子に自然と笑みがこぼれたり、自分の星座を見つけると拍手をしたりして楽しんだ。



【高等部】

NPO 法人富士と湖とかかしの里と実施している。各学年の交流では、花植え活動や清掃活動を行った。また、今年度ははまなし寮を訪問し、合唱の発表も行った。訪問した生徒からは、「一緒に歌ってくれてうれしかった」「人が多くてびっくりしたけど上手に歌えた」などの感想があった。作業学習の農園班との交流では、野菜の種まきを一緒に行い、生徒が野菜を育て、収穫し、富士と湖とかかしの里が運営している「ニコニコかかし食堂」にて提供してもらった。



3 居住地校交流

学部・学年	居住地校交流連携校	内容
小学部 1 年	富士河口湖町立河口小学校	生活科（やきいもパーティー）
小学部 1 年	富士河口湖町立船津小学校	音楽（身体表現、リトミック、楽器）
小学部 1 年	西桂町立西桂小学校	図画工作 （クリスマスの飾りづくり）
小学部 2 年	富士吉田市立 下吉田第二小学校	体育 （ドッジボール、しっぽとり）
小学部 2 年	富士河口湖町立小立小学校	特別活動 （歌、フルーツバスケット） 生活科（やきいも）
小学部 2 年	富士河口湖町立勝山小学校	図画工作（造形遊び） 生活科（どんぐり拾い）
小学部 3 年	富士河口湖町立船津小学校	図画工作 （大きな町をつくろう）
小学部 5 年	富士吉田市立 下吉田第二小学校	特別活動（レクレーション）
小学部 6 年	西桂町立西桂小学校	算数（比の学習）
小学部 6 年	富士河口湖町立大石小学校	特別活動（お楽しみ会）
中学部 1 年	西桂町立西桂中学校	体育（ボルダリング）

居住地校の児童生徒と共に学び、関係を築いたり、継続したりして相互に理解を深めること、本校の児童生徒が、将来、地域で生活するための基盤を作り、社会参加を促進することを目的に、小学部、中学部の児童生徒及び保護者

から希望があった場合に実施している。

交流を希望する理由は、「地域に住んでいる同年代の友達との交流を深めたい」「普段とは違う体験から良い刺激、良い経験を積んでほしい」「地域との関わりをもちたい」など学校外の同年代の友達や地域との関わりを大切にしたいという声が多くあった。

継続して行うことで居住地校の児童が本校の児童生徒を覚えていて、すぐに声を掛けてくれたり関わったりしてくれ、最初は緊張し不安な表情をしていた児童生徒も安心して活動に移ることができた。初めて居住地校交流を行った児童の中には、久しぶりに会う保育園の友達から話し掛けてもらったり、本人も友達の方へ行き、手をつないだり一緒に走ったりして楽しい時間を過ごすことができた。また、交流後にメッセージカードを送ってもらい、活動を思い出し喜ぶ児童の姿も見られた。保護者からは「久々に会った友達も色々なことを覚えていてくれてよかった」「周りの様子を見て行動できていて成長を感じた」「不安を口にしていたがお友達のおかげで払拭され安心して変わった。お友達の力はすごい」「今後も居住地校交流を継続したい」などの感想をいただいた。



4 まとめ

毎年、連携先の学校、諸団体の御理解と御協力のおかげで有意義な交流及び共同学習が実施できている。本校の児童生徒にとっては、普段関わることが少ない地域の方や同世代の友達・仲間から刺激を受けたり、人間関係を広げたりするよい機会となっている。また、地域の方からは、「本校のことは知っていたが、どのような学校なのかと思っていた」「また一緒に活動したい」「子ども達の笑顔が見られてうれしかった」などの感想をいただくことが多い。本校に通う児童生徒は、本校卒業後は地域の方に支えてもらいながら生活をしていくこととなる。この交流及び共同学習を通して、地域の方とつながり、地域の方に本校のことを知ってもらう場にもしていきたい。そのために、今後も地域の学校、地域の諸団体と連携を図り、互いが実りある交流及び共同学習になるよう努めていきたい。